

金鷹山

令和4年(2022)4月1日発行

通巻第14号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 [検索](#)

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



夏越大祓 茅の輪くぐり神事

ご報告

来たる四月六日(水)に毎年行う若宮八幡社御田植祭(大分県無形民俗文化財)は、感染症拡大防止の対策により、昨年度に続き中止とさせていただきます。

尚、当日午前に例年通り祈年祭を神社総代と一部ご来賓のみにて斎行致し、杵築市民の健勝と感染症の一日も早い終息を祈念申し上げます。

若宮八幡社 祈願祭・出向祭承りについて

公式HPは [金鷹山 若宮八幡社](#) で検索下さい

《祈願祭》若宮八幡社の社頭にて行います

- ・初宮詣・安産・子授け・七五三・厄除け・車の交通安全
- ・受験合格・赤ちゃんの名付け

《出向祭》宮司が伺い御地で奉仕申し上げます

- ・地鎮祭・上棟祭・井戸昇神祭・入居前清祓・竣工清祓
- ・神葬祭(神道でのお葬式)ほか

アクセスマップ



夏越大祓・茅の輪くぐり神事のご案内

半年間の罪や穢れをお祓いしませんか？併せて人形昇神祭も行います

人は皆、毎日の営みを行うに当たり、罪や穢れを避けることは出来ません。生きていくためには命あるお米をはじめ、肉・魚・野菜・果物などを食しております。例えば、庭の草取り一つとっても、庭掃除という名のもとに、命ある草を筆り取っていることも、罪と言えるでしょう。先人の知恵として、知らないうちに犯して積み重なった罪や穢れを人形(ひとがた)という人間の形をした紙製の形代に託してお祓いすることをやってきました。左記にて「夏越大祓」を齋行致しますので、ご近所お誘いあわせの上お越しになりますよう心よりお待ち申し上げます。

【夏越大祓・なごしのおおはらい】
齋行日時 六月三十日(木)午後三時
齋行場所 若宮八幡社境内の齋庭にて
※参列無料・予約不要(撤下米を配ります)



夏越大祓 茅の輪くぐり神事

宮司区の桜の名所が復活しました

参道や境内また若宮広場(当社境内地)に十年の歳月をかけて桜を植樹

若宮八幡社の参道、境内そして若宮広場の中にお宮の関係者や地元の方々、十年の長きに亘って植樹した河津桜、ソメイヨシノ、八重桜が毎年二月から四月にかけて開花し、地元の方々や若宮八幡社を参拝される皆様の目と心を癒し樂

しませています。この地は、昭和二十年代から四十年代は桜の名所として杵築市内でも有数の場所でありましたが、桜木の老化と病気が入ったことにより、近年は誠に寂しい状況となっていました。地元の方々の十年間の成

果が実を結ぶ、今春二月中旬より河津桜など約二五〇本の開花を楽しみに飲み物と弁当そしてゴミ袋をお忘れなく若宮の広場にお出かけ下さい。尚、駐車場・トイレも完備されておりますのでご心配ありません。



若宮広場に植えられた河津桜



今年是有志により榊と河津桜が60本植えられました

若宮八幡社史編纂事業 一緒に勉強・研鑽する方を募集します

若宮八幡社は、京都石清水八幡宮より四柱の神様を勧請し、寛和元年(西暦九八五年)八坂川岸に元宮・浜田社が鎮座されてより、来る令和十七年(西暦二〇三五年)に御鎮座一〇五〇年を迎えます。色々な記念事業が今後展開されていきますが、その一つとして「若宮八幡社史編纂事業」を取り進めるに当たり、紀田宮司と共に若宮八幡社の歴史などを解き明かしていく方を募

集致します。(若干名) 当社の神事・文化財・古文書などは宮司一人では判らないことも多いので、一緒に研鑽する意欲のある方からのご連絡を、心よりお待ちしております。 数カ月に一回程度若宮八幡社で勉強会を開催し、その後編纂委員会を立ち上げる予定です。(但し神社の活動のため、報酬などはありませんのでご了承下さい)

神宮大麻全国頒布百五十周年記念
 八百万神々の総氏神 伊勢神宮の特集
 二回に亘り伊勢神宮と神宮大麻を掲載

伊勢神宮は、正式には「神宮」と呼び、天照皇大神をお祀りする皇大神宮(内宮)と豊受大神をお祀りする豊受大神宮(外宮)の両宮を中心に、十四社の「別宮」、四十二社の「摂社」、二十四社の「末社」、四十二社の「所管社」の合計百二十五のお社の総称です。

太陽のように光麗しく、八百万と言われる神々の中で最も尊い神様と仰がれる天照大神をお祀りする内宮は、倭姫命が天照大神の永遠に鎮まる場所を求めて全国を巡られ約二千年前に伊勢の地にお鎮まりになりました。そして「神宮大麻」とは、家庭で天照大神の御神徳を仰ぎ、拝礼するための御神札です。神宮大麻の「大麻」とは、本来「おおぬさ」と読み、神々へのお供え物、またお祓いの時に用いられる木綿や麻を指します。平安時代から神宮と人々の間を取り持つ

「御師」と呼ばれる人たちが居ました。この御師が、参宮者の為に祈禱を込めて配布した「御祓大麻」が、伊勢の御神札の起源と言われています。その後、明治四年に御師制度が廃止され、明治五年(西暦一八七二年)からは、明治天皇の深い思召しのもと、神宮司庁(伊勢神宮)が直接奉製した神宮大麻が全国の家庭に頒布されるようになりました。

以来、本年は百五十年を迎え、全国の神社ではより多くのご家庭に神宮大麻をお頒ちする機運を高めており、その一環として、社報「金鷹山」の紙面に於いて2回に亘り伊勢神宮特集を掲載し、皆様方に伊勢神宮また神宮大麻についてご理解を深めて戴きたいと思っております。本号では、伊勢神宮の歴史・お祭りなどをご紹介致します。次号(第十五号・九月一日刊)で、神宮大麻について特集を掲載致します



内宮宇治橋の鳥居 写真借用神宮司庁



神宮大麻をお祀りする神棚 写真借用神宮司庁



五十川の御手洗場 写真借用神宮司庁



火鑽 写真借用神宮司庁



御料の干鯛 写真借用神宮司庁

天照皇大神を伊勢の地にお祀りして以来、伊勢神宮(以下「神宮」)では、年間約一五〇〇回のお祭りを絶やすことなく続けており、その中で毎日行われているのが「日別朝夕大御饌祭」です。日別朝夕大御饌祭は、常典御饌とも呼ばれ、朝と夕の二度行われます。天照皇大神のお食事は、豊受大神が調えることが決まりで、外宮の御鎮座以来凡そ一五〇〇年の間、欠かすこ

となく続けられています。神様にお供えされるお食事は、「神饌」と呼び、神饌の調理は外宮の忌火屋殿という建物で、早朝に前夜からお籠もりした神職により行われます。お供えする神饌は、格別におこした忌火で調理することになっており、神職が古代さながらに火鑽具を用いた火でなければなりません。すべての準備が整うと、奉仕員の神職は装束を身に纏い、忌火屋殿前の祓所で、神饌と

神職を御塩でお清めした後、御饌殿に神饌をお運びし、祝詞が奏上されます。神饌の調製は自給自足が原則で、お米は「神宮神田」、野菜果物は「神宮御園」、御塩は「御塩浜」、干鯛は愛知県南知多町篠島に調製所があり、神様の衣となる神御衣御料の和妙(絹)・荒妙(麻)の一部は松阪市の神服織機殿神社・神麻続機殿神社の八尋殿に於いて織り上げられます。(小学館「図解伊勢神宮」より)



和妙の奉織作業 写真借用神宮司庁

【毎年のお祭り・恒例祭】
 現在神宮のお祭りは、古式のままに年間約一五〇〇回も行われています。毎年決められた日時に行われる「恒例祭」は、大祭・中祭・小祭に分けられます。

大祭のなかでも、最も重要なのが神嘗祭で、六月・十二月に行われる月次祭と合わせて「三節祭」と呼ばれます。この三節祭に、豊作を祈念する二月の祈年祭、秋の稔りに感謝する十一月の新嘗祭を加えて「五大祭」ともいいます。これらのお祭りには天皇陛下から御奉納される幣帛を奉る「奉幣の儀」が行われます。そのうち月次祭を除くお祭りには、天皇陛下のお使いである勅使が参向します。また神様の衣を奉る五月と十月の神御衣祭も大祭に含まれ、これらの大祭の前月と六月と十二月の晦日には大祓も行われます。



日別朝夕大御饗祭 写真借用神宮司庁

中祭には、新年をお祝いする歳旦祭、風雨の順調をお祈りする五月と八月の風日祈祭、天皇陛下のご生誕の日に行われる天長祭、また外宮で毎日行われる日別朝夕大御饗祭も中祭に属します。

小祭には、神嘗祭にお供える御米の生産にあたる神田下種祭や、抜穂祭があり、野菜果物の豊かな稔りを祈る御園祭、御塩を焼き固める御塩殿祭などがあります。

これらのお祭りの根底には、古来日本人が稲作を中心とした暮らしのなかで、神を祀り、豊かな恵みに感謝を捧げる「日本人のこころ」が流れています。神宮では二〇〇〇年以上にわたり、稲が芽吹き、稔るといふ稲作の周期とともにお祀りが行われ、そのなかで天照皇大御神のご神徳を称え、ご神恩に感謝し、国家の隆昌と国民の幸せをお祈りしています。



神嘗祭で内宮に参進する神職 写真借用神宮司庁

【神嘗祭について】
 神嘗祭は、その年に収穫されたお米(新穀)を最初に天照皇大御神に捧げて、恵みに感謝するお祭りです。

まず十月十五日に内宮の御垣内に祀られている地主神である興玉神祭から始まり、続いて内宮中重において御卜が行われます。

神宮の祭典は、外宮先祭といて、外宮から祭儀が行われる習わしがあります。

外宮では、十五日の夜に由貴夕大御饗、十六日未明に由貴朝大御饗を奉仕します。内宮では、十六日の夜と十七日の二度に亘り由貴夕大御饗、由貴朝大御饗があり、夕刻に御神樂が行われます。

この後、神嘗祭は二十五日まで別宮、摂社、末社、所管社のあるすべてのご神前で、感謝と祈りが捧げられます。(小学館「図解伊勢神宮」より)



式年遷宮の上棟祭 写真借用神宮司庁

【二千年に一度の式年遷宮】
 式年遷宮の「式年」とは、定められた一定の年限のことです。「遷宮」とは、宮を遷すことを意味します。神宮には内宮にも外宮にもそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、式年遷宮は二千年に一度、宮処を改め、社殿や御装束神宝のすべてを新しくして、天照皇大御神に新殿へお遷り戴く神宮最大のお祭りです。

式年遷宮は、第四十代天武天皇が発意し、続く第四十一代持統天皇の四年(西暦六九〇年)に内宮、同六年に外宮で第一回が行われました。以来、室町時代に一時中断されましたが、一三〇〇年に亘り継続され、平成二十五年(西暦二〇一三年)で六十

二回を数えました。

神宮は今も昔ながらにお祭りをを行い、年間八〇〇万人以上の参拝者をお迎えしており、その中で神宮は決して過去の遺跡や遺産ではないのです。

古き伝統を伝えながら社殿は常に瑞々しい(常若)状態を保っています。「古くて新しい」社殿であると神宮が言われる所以です。

式年遷宮は、未来永劫、精神や技術を守り続けていくための神宮の智慧なのです。(小学館「図解伊勢神宮」より)

来たる令和十五年(西暦二〇三三年)に第六十三回の式年遷宮を迎え、これより全国規模で奉賛活動が展開されていくこととなります。



昭和四年度御遷宮絵巻 遷御 神宮徴古館蔵

昨年秋から冬に行われた神事の報告

観月祭・亥の子・新嘗祭・例大祭・年越大祓齋行される

【観月祭】九月二十一日(火)
中秋の名月、満月の佳き夕刻に雅楽を神様に奉り、御心を慰め申し上げました。
奉納曲目(二曲を奏楽)
黄鐘調「君が代」
平調「五常楽急」

日頃雅楽を研鑽する氏子さんたちが、宮司と共に龍笛と楽箏(雅楽の琴)で一所懸命に雅楽を奉納致しました。月に2回、神社の拝殿にてお稽古も行っています。(無料)個別のお稽古も承りますのでご連絡お待ちしております。
【亥の子】十月二十四日(日)
地元、宮司区の方たちにより亥の子石を元気に突き上げて、区内を巡って戴きました。



観月祭に供えられた神饌



宮司区伝統の亥の子



毎月2回の雅楽のお稽古

【新嘗祭】十一月二十三日(火)
秋の稔り多きことに神様に感謝申し上げる神事です。
本来は、杵築地区及び北杵築地区の各区長にも参列を戴くところですが、感染症対策により一部ご来賓に限定の上、齋行致しました。
新嘗祭は、四月六日の祈年祭に対比する形で行われ、全国の神社で勤労感謝の日に齋行される神事で、神前には秋の収穫物が沢山奉納されました。(芳名は次頁に掲載)
神事に併せて、多年に亘り境内を清掃奉仕された地元宮司区の「侑ふじ環境センター」様に感謝状の贈呈も行われました。
また十一月五日から二十三日にかけて、「令和の御大典写真パネル」の展示も行われ、七五三祈願の方をはじめ、多数の方に観戴きました。



新嘗祭での表彰



令和の御大典パネル展示



例大祭奉祝 池坊別府中央支部奉納生花展



浜八人衆 神輿清掃奉仕



大晦日に行われた年越大祓

【例大祭】
 十二月四日(土)・五日(日)
 感染症対策により、一部ご来賓の方に限定して斎行致しました。
 神賑として、池坊別府中央支部の生け花展示の奉納がありました。
 神輿の渡御はありませんでしたが、浜八人衆の皆様により神輿の清掃と飾り付けを行って戴きました。
【年越大祓】
 十二月三十一日(金)
 知らないうちに積み重なった罪や穢れをお祓いして、正月をお迎えするべく沢山のご参列を戴き執り行われました。
 来たる六月三十日(木)には、夏越大祓(茅の輪くぐり神事)が行われますので、皆様お越し下さい。(詳細は2ページ)



新嘗祭で奉納されたお供えの数々

- 《奉献一覧》** ※順不同
- 【新嘗祭】**
 吉水 謙二 様
 阿部 重徳 様
 JAおおいた東部事業部 様
 JAフーズおおいた(株) 様
 (有)中野酒造 様
 綾部味噌醸造元 様
 とまや茶舗 様
 松山 堂 様
 徳一 様
 フンドーキン醤油杵築営業所 様
 (有)高橋水産 様
 (有)ふじ環境センター 様
 大分県神道青年会 様
 (株)木元電設 様
 日商保険コンサルティング(株) 様
 (株)光徳産業 様
 (有)藤原建築 様
 林表具店 様
 城下町会館 様
 矢野 守光 様

- 後藤 秀子 様
 稲員 澄雄 様
 紀田 兼宣 様
 岩尾 隆典 様
 藤崎 善晶 様
 吉田 生二 様
 越海 日二 様
 萱島 祥彦 様
 豊福 政美 様
 加藤 隆義 様
 徳久 文生 様
 清原 正憲 様
 森 孝一郎 様
 森 昭 様
 守末 卓広 様
 きつき漁菜館 様
 高田 年春 様
 青柳 純一 様
 匿 名 様

- 【令和四年正月】**
 宮司区氏子中 様
 矢野 守光 様
 (有)中野酒造 様
 (有)藤原建築 様
 城下町会館 様
 (株)山 功 様
 門 熙 様
 酒井 臣司 様
 (株)光徳産業 様
 (株)杵築建設 様
 古田 久年 様
 田邊 文夫 様
 大石 秀男 様
 田代 啓子 様
 井上 剛 様
 財前 孝行 様
 山本フサ子 様
 守末 卓広 様
 渡邊 清治 様
 藤原 清治 様
 徳一 様
 かどフラワー 様
 本多 泰久 様
 岩尾 隆典 様
 国東観光バス(株) 様
 匿 名 様